

つるがおかじょうあと 鶴ヶ岡城跡 (第3次)

遺跡番号 203-044
調査回数 第3次
所在地 山形県鶴岡市若葉町 26-31
北緯・東経 38度43分51秒 139度49分27秒
調査委託者 山形県教育庁教育政策課
起因事業 山形県立庄内中高一貫校（仮称）整備事業
調査面積 300㎡
受託期間 令和4年4月1日～令和5年8月31日
現地調査 令和4年6月1日～8月31日
調査担当者 高桑登（現場責任者）・植松暁彦
調査協力 山形県立鶴岡南高等学校・鶴岡市教育委員会
遺跡種別 城館跡
時代 近世
遺構 堀・溝・土坑・柱穴・井戸
遺物 陶磁器・木製品・金属製品・石製品（文化財認定箱数：25箱）



遺跡位置図 (S = 1:50,000)

調査の概要

鶴ヶ岡城二の丸堀の北側には七ツ蔵と呼ばれた庄内藩の米蔵が置かれていた。現在は山形県立鶴岡南高等学校の敷地となっている。鶴岡南高の校舎を一部増築する形で庄内中高一貫校（仮称）の整備が計画され、それに伴って発掘調査を実施した。

城絵図の検討等から堀の存在が想定され、掘削深度が深くなることが予想されたため、事業範囲のうち既存校舎から約6mの範囲を除外し、既存校舎に掘削の影響が及ばない範囲を調査区として設定した。調査区は既存

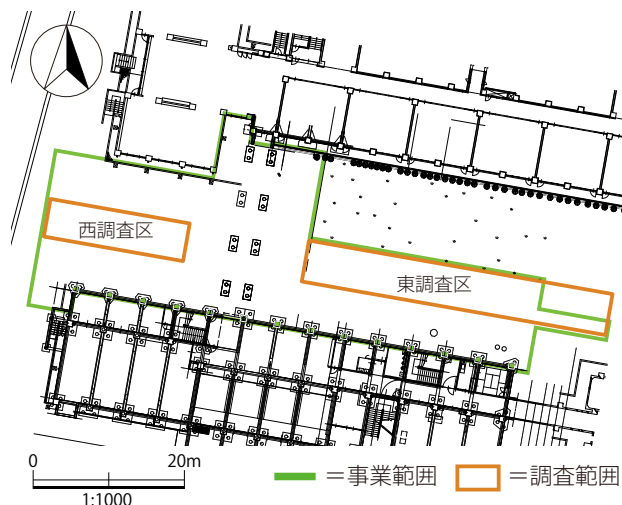


図1 調査区概要図 (S = 1:1,000)

の渡り廊下を挟んで東側を東調査区、西側を西調査区としている（図1）。

遺構と遺物

堀の検出を進める過程で、礎石とそれを据えた根石を埋設した土坑が検出されたため、その面を第1面として遺構面を設定した（図2上、写真1・2）。周辺の出土遺物や層位から近代以降の礎石であることが分かったため、礎石は重機で除去し、土坑の配置と一部の土坑の土層断面の記録にとどめている。礎石の配置と過去の学校図面の検討から、検出された礎石は昭和16年（1942）

に竣工した鶴岡中学校に伴うものと考えられる。

一部の土坑では根石中に礎石が埋め込まれ、前段階の建物の礎石が根石として転用されていたことが分かった(写真3)。根石上に据えられていた他の礎石と埋設された礎石には、柱部分を平坦に加工する共通の特徴が認められ、同時期の礎石の可能性が高い(写真4)。このことから、根石上に据えられていた礎石も、前段階の建物から転用されたものと考えられる。前段階の建物は、明治30年(1897)に建設され昭和13年(1939)に火災によって焼失した荘内中学校(のちに鶴岡中学校と改称)の建物か、あるいは、それ以前の七ツ蔵に伴う建物の可能性がある。

第2面で七ツ蔵の堀(SD001・SD501)を検出した(図

2中、写真6・7)。東調査区は調査区の大半を近代の溝(SD101)によって破壊されており、わずかに遺存していた堀の斜面と調査区壁面の土層断面で堀の東岸を確認した(写真8・9)。SD101は堀の埋没後に堀から堀外にかけて掘削されていること、掘削後、短期間に埋め戻されていること(写真5)等から、学校建築前に堀埋没後の軟弱な地盤から排水するための地盤改良の痕跡と考えられる。

東調査区の東半部では、SD101の南北で堀外の武家屋敷に伴うと考えられる近世の遺構を確認している(写真10)。東調査区の西半部ではSD101より深い部分でSD001の堀底を確認したが、調査区壁面崩落の危険から一部の掘り下げにとどめている。

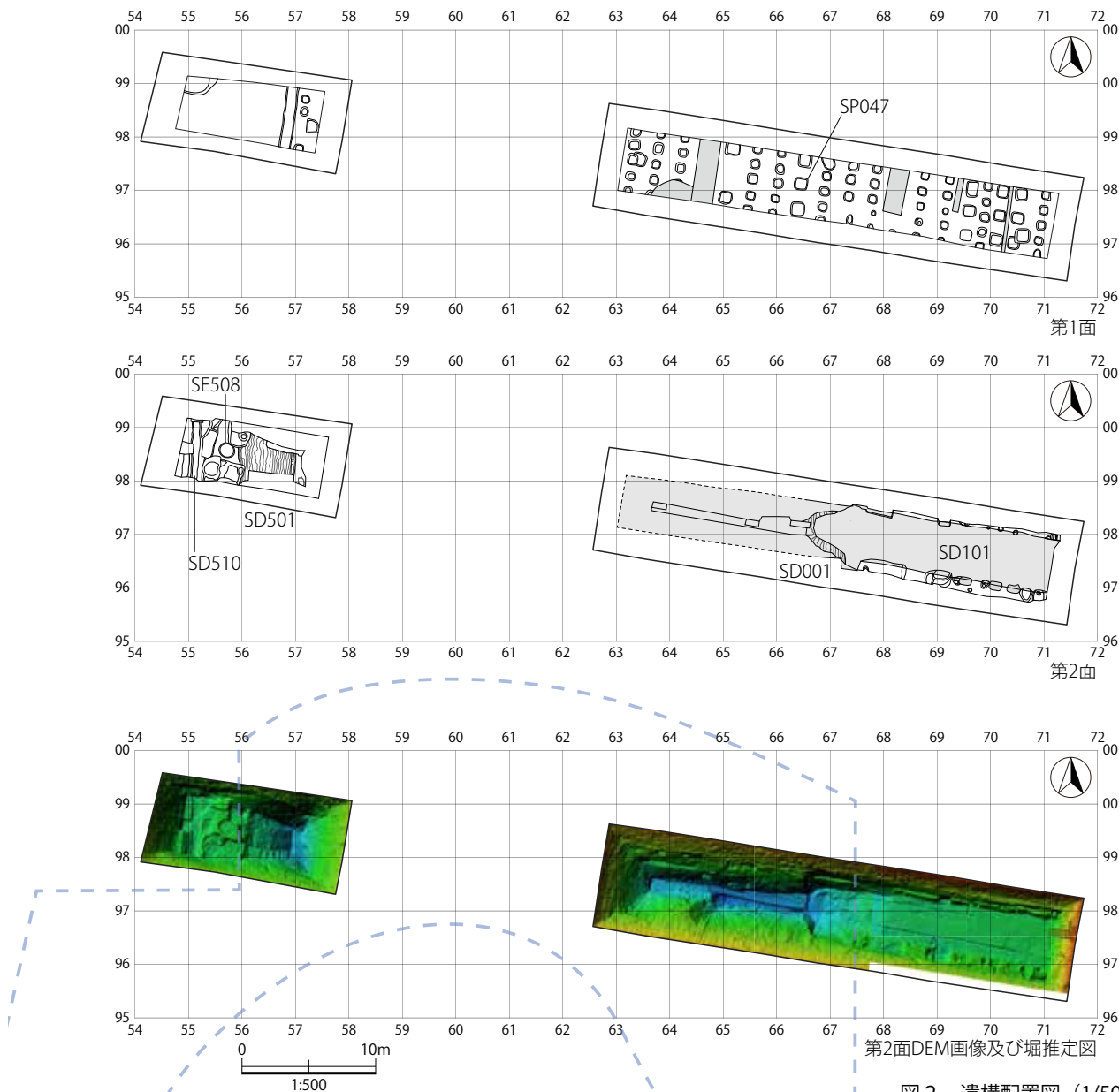


図2 遺構配置図(1/500)

西調査区で検出された堀（SD501）は現地表からの深さ約 3.5m、西側斜面の傾斜はおよそ 26 度である（写真 7）。東調査区で確認した東岸から、西調査区で確認した西岸までの距離は 47m である。七ツ蔵を囲む堀の北西部が北に突出して描かれる絵図が多く、検出した堀はその突出部にあたると考えられる（図 2 下）。

東西調査区の堀堆積土からは陶磁器や木製品等、近世の遺物が出土している。最下層から 17 世紀第 1 四半期に生産された肥前磁器（写真 12 左）が出土しており、寛永元年（1624）の七ツ蔵設置の記事と一致する。

SD501 堀の西側には堀埋没後の近代の遺構が多く分布するが、SE508 井戸が近世、SD510 溝が中世に遡る（写真 11）。SD501 溝の底面から 15 世紀の古瀬戸瓶子と青磁碗（写真 12 右）が出土している。



写真 1 第 1 面遺構検出



写真 2 根石土層断面



写真 3 SP047 礎石埋設状況

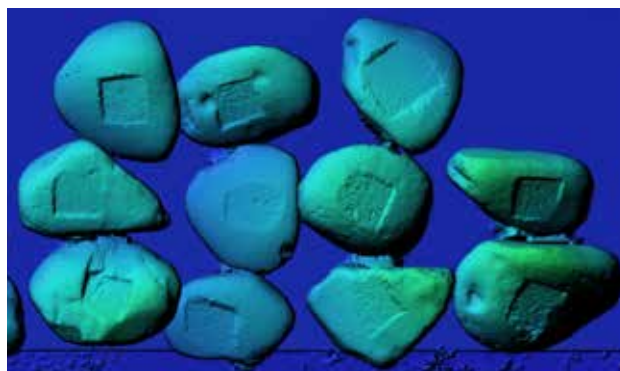


写真 4 柱部分が平坦に加工された礎石



写真 5 SD101 土層断面

まとめ

鶴岡南高等学校の前身である鶴岡中学校の遺構を確認した。出土した礎石には柱部分を平坦に加工する類例の少ない工法が認められ、当地域の近代建築の変遷を検討する上で貴重な成果となった。

見つかった堀は七ツ蔵を囲む堀の北端部にあたる。七ツ蔵堀は各時期の絵図に異なった形状で絵描かれているが、絵図と現在の地形を比較するための基準となる成果を得ることができた。

西調査区で 15 世紀代の遺構、遺物が出土した。鶴ヶ岡城跡周辺の発掘調査は城の南半部の調査が多く、中世の遺構、遺物も南半部で多く確認されていたが、城の北半部周辺にも大宝寺城期の遺構、遺物が分布していることが明らかとなった。



写真6 東調査区 SD001



写真7 西調査区 SD501



写真8 SD001 土層断面



写真9 SD001 東斜面検出



写真10 SD101・近世遺構



写真11 SD510・SE508



写真12 SD501 (左)・SD510 (右) 出土遺物